

# 調査報告書

令和7年8月20日

袖ヶ浦市議会議長 小国 勇 様

議会広報特別委員会  
委員長 篠崎 典之

会議規則第106条の規定による調査のため、視察したところ、概要は下記のとおりでしたので、報告いたします。

## 記

- 1 期 日 令和7年7月11日（金）
- 2 場所・目的  
（1）都城市議会  
・みやこのじょう市議会だよりの発行について
- 3 参加者 9人（議会広報特別委員7人、事務局2人）
- 4 概要 別紙のとおり

## オンライン視察の概要

千葉県袖ヶ浦市議会が、宮崎県都城市議会の先進的な議会広報(特に「議会だより」の取組)について学ぶため実施したオンライン視察。

- 視察する側: 袖ヶ浦市議会広報特別委員会
- 視察される側: 都城市議会広報広聴委員会
- 主なテーマ:
  1. 読まれる「議会だより」の編集方法
  2. QRコードの活用方法とその効果
  3. 市民の意見を議会活動にどう反映させているか

## 【要点整理】都城市議会の先進的な取組

都城市議会は、市民に議会を身近に感じてもらうため、以下の2点を軸に改革を進めている。

### 1. 「読みたい」と思わせる議会だより作成

- 斬新なデザイン: 人気映画のロゴや週刊誌の中吊り広告のようなデザインを採用し、手に取ってもらうきっかけを作っている。(映画ゴジラのイメージなど)
- QRコードの全面活用:
  - 目的: 紙面の文字数制限では伝わらない「議会のリアルな議論」を届けるため。以前は質疑応答を文字で要約していたが、内容が不十分になるという課題があった。
  - 内容: 質疑応答の様子を録画したYouTube動画へ直接リンク。議員と市の担当者が「何を」「どのように」話したかが音声と映像で全てわかる。
- 成果:
  - 「初めて議会の動画を見た」「分かりやすい」といった好意的な意見が寄せられている。
  - アンケートの回答数が、従来の紙媒体のみの時(10~20件)から、Webアンケートを導入後(300件以上)に大幅に増加した。

### 2. 市民の声を政策につなげる仕組み作り

- 目的: 「議員個人の手柄」ではなく、「議会全体」として市民の声に応える体制を作る。

- **具体的な流れ:**
    1. **意見交換会:** 各委員会が所管テーマ(例:子育て、公共交通、農業など)を決め、市民から直接意見を聞く。
    2. **政策提言協議会:** 意見交換会で出た市民の声をこの協議会で集約・検討する。
    3. **各委員会へフィードバック:** 検討内容を各委員会に持ち帰り、具体的な調査や政策提案に活かす。
  - **位置づけ:** この仕組みはまだ始まったばかりだが、市民の声を議会活動の出発点にしようという明確な意図がある。
- 

## 袖ヶ浦市議会の現状と今後の課題

- **歴史と現状:** 203号続く、議会だよりを発行。以前は文字中心だったが、近年は座談会記事を載せるなど、読みやすくするための工夫を始めている。
  - **課題:** 読者の意見を直接聞く仕組み(アンケートなど)がまだなく、市民の声をどのように集め、政策に活かしていくかが今後の課題であると認識している。
- 

## まとめ

今回のオンライン視察は、議会広報の役割について両市が意見交換を行う貴重な機会となった。

- **都城市:** QRコード活用や市民の声を政策化する仕組みなど、市民参加を促す積極的な広報・広聴戦略が特徴。
- **袖ヶ浦市:** 都城市の先進的な取組から大きな刺激を受け、今後の議会改革や広報活動の具体的なヒントを得た。

## 視察風景

